

## 事務局だより

「事務局だより」 (第1回)

2021/10/23

DOWAS事務局 有馬博史

(佐賀大学海洋エネルギー研究センター 准教授)

みなさん、こんにちは。DOWAS事務局の有馬博史です。今回、論文誌編集委員会からの要請で、新コーナーの「事務局だより」の執筆を担当することになりました。このコーナーでは、深層水関連の話題を中心に肩の凝らない内容で発信して行きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

初回ということで、私の自己紹介と私が海洋深層水や本学会と関わるきっかけとなった時のお話したいと思っております。

私は現在、佐賀大学海洋エネルギー研究センターに所属しています。担当は海洋熱エネルギー部門熱エネルギー変換基盤分野で、主に海洋温度差発電に用いられる熱交換器の研究や海洋深層水を用いた装置用の熱交換器の研究も行っています。そのため、佐賀県伊万里市にある海洋エネルギー研究センター伊万里サテライトと、海洋深層水が使える沖縄県久米島町の同・久米島サテライトの2つの拠点を歩き来しています。

ところで私が本学会と初めて関わったのは、1999年に開催された「第3回海洋深層水'99佐賀大会」において、私が現地の実行委員として担当した時でした。'99佐賀大会は佐賀県伊万里市を会場として開催され、現地実行委員会は、佐賀大学理工学部附属海洋温度差エネルギー実験施設(海洋エネルギー研究センターの前身)の故・上原教授(元・佐賀大学学長)と池上教授(現・DOWAS副会長)を中心に同施設のスタッフで組織されました。当時私は同施設の非常勤講師でしたので、同時開催された「国際海洋技術・エネルギーシンポジウムin伊万里'99」と共

に実行委員として携わりました。本学会とは、この時から数えると約20年関わっていることとなります。

さて、本稿を執筆するにあたり'99佐賀大会当時のことを思い返してみたのですが、私は初め「海洋深層水」とは何なのか認識せずに実行委員会に携わっていたように思います。当時私は海洋温度差発電に関する研究を行っていましたので、発電の熱源として深層水と表層水を使うことは知識の上では理解していましたが、そもそも海洋深層水がどのような性質で、また利活用が行われているか、についてはその時まで考えたことがありませんでした。しかし、この'99佐賀大会の講演で様々な分野の研究発表を聴講したことで、海洋深層水について詳しく知り得るよい機会となりました。

また、'99佐賀大会では、深層水を利用した製品のサンプルの展示も行われていました。海洋深層水利用の食品や飲料水の展示もあり、深層水の利活用について非常に興味をもって見学したことを覚えております。

このようなことをきっかけとなり本学会や海洋深層水と関わりを持つことが出来ましたが、今では本学会の事務局を務めさせていただくまでになりました。また、それ以後本学会との関わりが深くなっていくこととなりますが、皆様にご紹介したいエピソードもいくつかありますので、それはまた別の機会にお話ししたいと思います。

長い自己紹介となりましたが、これから「事務局だより」のコーナーをよろしくお願いいたします。